

第7回アフリカ開発会議(TICAD)開催で考えたこと

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 8月末に、横浜のパシフィコ横浜で、アフリカ開発会議が開かれました。これは、日本政府が主導してアフリカの開発のために開いている会議で、3年に1度開催されます。英語ではTICADといい、その第7回が8月末に開かれました。
私は、東京にある経済同友会のアフリカ委員会の委員を十数年やっています。その委員会で、アフリカの開発支援をどうするか・3年ごとに開かれるTICADをどのような内容でやるべきか・どんな運営の仕方をすべきかなどについて意見書を出したことがあります。
3. 最初のころは日本で開かれていましたが、第6回からはアフリカでも開かれることになり、2016年にはケニアの首都ナイロビで開かれました。私も世界銀行の知り合いの方に要請され、参加させていただきました。
4. アフリカの2018年の人口は、約12億3000万人です。アフリカの人口は10年ごとに3億人ずつ増えています。ですから、2050年には今の2倍にあたる20億人を超え、2100年には35億人を超えることとなります。そのとき世界の人口はどうなっているかというと、今は40億人であるアジアの人口は2060年ごろには約50億人になり、その後は減って2100年には45億人ぐらいになると予想されています。2100年のアフリカの人口は35億人ですから、アジアの人口に近づいてきます。2100年の世界の人口は約100億人といわれていますので、約35%がアフリカ、約45%がアジア、残りの20%がヨーロッパ・南米アメリカ・オセアニアの人口です。
5. そのため、アフリカはこれから非常にポテンシャルのある地域になります。特に、2010年から2100年までの90年間に約25億人増えるというすさまじい人口爆発のところですので、日本にとっても見過ごすことはできません。
6. アフリカには54か国あり、非常に豊かになりつつある国もありますが、まだ紛争が続いてなかなか大変な国もあります。そこで、日本ができることは何かについてTICADで議論していて、今年でついに7回目を迎えることができました。

7. 日本ができることには、日本企業が進出する場合の下地づくりがあります。ただ、それは二次的なもので、アフリカの国々が安定することを一番大事にしています。例えば、日本企業が進出させてもらい、得意とする日本企業ならではの人材育成や技術移転、治安維持などの分野を活かしながらアフリカの国々の発展を支援することです。
8. 2010年に10億人だったアフリカの人口は2100年に35億人になり、25億人も増えると予想されます。このようなアフリカの人口爆発は、世界の国々にとっても日本にとっても大きな影響がありますので、できるだけ支援が必要です。具体的には、基礎的なインフラ整備を支援し、日本企業に進出してもらって日本企業ならではの活動をしながらアフリカの方々と一緒にアフリカをつくるのが大事です。
9. 日本が特に得意なことは、安定的で信頼される制度の構築とガバナンスの強化といわれています。それは、例えば選挙や行政システムなどの制度設計・構築を支援することです。また、日本は犯罪が少ないなど司法・警察・治安維持が上手くいっているのも、そのような分野を担う人たちを6000名育成することです。
10. 来年の4月には、国連犯罪防止刑事司法会議(コンGRESS)を日本で開くことが決まっています。また、人間の開発教育を中心に、井戸・トイレなどの整備、教育分野・職業訓練の支援、5S運動・改善活動などを一生懸命やりながら、アフリカの方々のために日本の企業も少しずつ進出し、アフリカの方々と一緒に経済を見直すことも行われています。
11. アフリカ54か国すべてが、日本企業が来てくれることを望んでいます。今日の放送をお聴きの皆さんの中に我こそはという方がいらっしゃったら、ぜひアフリカに行って仕事をしていただければと思います。